

A.D. 1,800 ~ 2,000 年

A.D. 2,000 年～

欧
米

•ルネ・モーリス・ガットフォセ(1881～1950)

フランス人化学者。化学実験中に火傷を負った際、治療にラベンダー精油を使用して、著しい効果があげたというエピソードがある。1937年に「aromatherapie」を著す。「アロマテラピー」はガットフォセが造語したものの。

•マルグリット・モーリー(1895～1968)

オーストリア人。フランスで活躍した生化学者。精油を植物油で希釈してマッサージする方法を開発。1961年に「Le capital 'Jeunesse' (最も大切なもの・・・若さ)」を出版し、美容の国際的な賞である「シデスコ賞」を受賞。のちに英訳され、イギリスにおけるホリスティック・アロマテラピーの礎となった。

•ジョバンニ・ガッティとレナート・カヨラ(1920～1930年代)

イタリア人医師。精油の治療的効果と神経系への作用、スキンケアへの応用などの分野で共同研究を行う。

•ジャン・バルネ(1920～1995)

フランスの軍医。第二次世界大戦で軍医として従事し、負傷者たちに精油から作った薬剤を用いて治療を行った。抗生物質の使用に疑問を感じ、軍籍を離れた1964年「AROMATHERAPIE」を著す。「役に立つこと」「科学的領域にとどまること」に重点をおき、アロマテラピー啓蒙に力を尽くした。

•パオロ・ロベスティ(1970年代)

ミラノの植物誘導体研究所所長。柑橘類の精油が神経症やうつ病に有効であることを発見。

•ロバート・ティスランドとシャーリー・プライス(1960～1980年代)

イギリスでアロマテラピースクールを開設し、多くの専門家たち(アロマセラピスト)を育てた。

南
西
ア
シ
ア

東
ア
シ
ア
(
中
国
・
日
本
)

•鳥居鎮夫

東邦大学名誉教授。香りの心理効果の研究。ラベンダーやジャスミンの香りの鎮静作用や興奮作用を実証。1986年イギリスで開催されたシンポジウムで実験結果を発表。

•非営利団体「日本アロマテラピー協会」(AAJ)設立(1996)

アロマテラピー検定をはじめ、各種資格認定制度を創設。国際的にも有数のアロマテラピー団体のひとつとして知られる。

•「日本アロマ環境協会」 (AEA)設立(2005)

(※AAJはAEAの設立に伴い解散)